



2013年9月20日

各 位

会 社 名 マックスバリュ中部株式会社
 代表者名 代表取締役社長 鈴木 芳知
 (コード番号：8171 名証第2部)
 問合せ先 取締役総合企画本部長 小泉 寛
 (TEL：052-857-0719)

業績予想の修正及び特別損失の計上に関するお知らせ

当社は、最近の業績動向を踏まえ、2013年4月9日に公表した2014年2月期第2四半期累計期間の業績予想を、下記のとおり修正いたしますのでお知らせいたします。

また、同期間において、下記のとおり特別損失を計上いたしますのでお知らせいたします。

記

1. 業績予想の修正

(金額の単位：百万円)

2014年2月期第2四半期(累計)連結業績予想数値の修正(2013年3月1日～2013年8月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	77,300	1,250	1,250	650	20円53銭
今回修正予想(B)	76,100	440	490	17	0円54銭
増減額(B-A)	▲1,200	▲810	▲760	▲633	—
増減率(%)	▲1.6	▲64.8	▲60.8	▲97.4	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2013年2月期第2四半期)	—	—	—	—	—

※当社は、2013年2月期より決算日を1月31日から2月末日に変更いたしました。これに伴い、当第2四半期(2013年3月1日から2013年8月31日)と比較対象となる前第2四半期(2012年2月1日から2012年7月31日)の期間が異なるため、前期第2四半期実績については記載しておりません。

2014年2月期第2四半期(累計)個別業績予想数値の修正(2013年3月1日～2013年8月31日)

	営業収益	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A)	77,300	1,350	1,350	750	23円69銭
今回修正予想(B)	75,800	420	460	▲7	▲0円22銭
増減額(B-A)	▲1,500	▲930	▲890	▲757	—
増減率(%)	▲1.9	▲68.9	▲65.9	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (2013年2月期第2四半期)	—	—	—	—	—

※当社は、2013年2月期より決算日を1月31日から2月末日に変更いたしました。これに伴い、当第2四半期(2013年3月1日から2013年8月31日)と比較対象となる前第2四半期(2012年2月1日から2012年7月31日)の期間が異なるため、前期第2四半期実績については記載しておりません。

2. 修正の理由

当第2四半期累計期間は、業種業態を越えた競合他社とのシェア争奪や価格競争が激しさを増す厳しい経営環境が続きました。こうした中、当社は3月1日付のマックスバリュ中京株式会社との合併に合わせてスタートした「合併記念パワーアップセール」などの販促強化やイオンのブランド「トップバリュ」を軸とした価格政策の見直しなど、売上高の拡大を図りましたが、自社ポイントカードからイオンの電子マネー「WAON（ワオン）」への切り替え時の浸透の遅れ等により、買上点数悪化のトレンドを回復させることができず、既存店売上高前年比96.7%（当初計画99.4%）となり、営業収益が当初予想を下回る見込みとなりました。

営業利益・経常利益につきましては、売上不振や荒利益率の低下に伴い営業総利益が悪化したことに加え、合併時のシステム変更、作業手順変更などに伴う人件費の増加や売上対策に伴う販促費の増加など販売費及び一般管理費も増加し、連結・個別ともに当初予想を下回る見込みとなりました。

四半期純利益につきましては、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づく減損損失など、特別損失591百万円の計上により、予想を下回る見込みとなりました。なお、通期の業績予想につきましては前回予想を修正しておりません。

3. 特別損失の計上及びその内容

「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、当社の保有する固定資産について将来の回収可能性を検討した結果、店舗に係る減損損失563百万円、遊休資産等に係る減損損失5百万円を計上する見込みであります。また、その他特別損失として22百万円を計上し、当第2四半期累計期間の特別損失は591百万円となる見込みであります。

※上記の業績予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものです。実際の業績は今後様々な要因によって業績予想数値と異なる結果となる可能性があります。

以上